

ムーンショット型研究開発事業
令和5年度プロジェクト事後評価について（目標9）

(1) 目的

プロジェクトの研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の成果の展開及び事業運営の改善に資することを目的とする。

(2) 実施時期

事後評価は、研究終了前の適切な時期に実施する。

(3) 評価項目及び基準

- ムーンショット目標達成等に向けたプロジェクトの目標や内容の妥当性
- プロジェクトの目標に向けた進捗状況(特に国内外とも比較)
- プロジェクトの目標に向けた今後の見通し
- 研究開発体制の構築状況
- PMのプロジェクトマネジメントの状況(機動性、柔軟性等を含む。)
- 研究データの保存、共有及び公開の状況
- 産業界との連携及び橋渡しの状況(民間資金の獲得状況(マッチング)及びスピリアウトを含む。)
- 国際連携による効果的かつ効率的な推進
- 大胆な発想に基づく挑戦的かつ革新的な取組
- 研究資金の効果的・効率的な活用
- 国民との科学・技術対話に関する取組
- その他(1)に定める目的を達成するために必要なこと。

なお、上記に関する詳細については、評価者が決定する。

(4) 評価者

評価者はPDとし、評価にあたってはアドバイザー等の協力を得て行う。

(5) 評価の手続き

プロジェクトごとに、被評価者からの報告及び被評価者との意見交換等により評価を行う。この場合において、必要に応じて研究開発実施場所での調査等又は外部有識者の意見の聴取を行うことができる。評価結果はガバニング委員会に報告する。

※評価対象プロジェクト、評価会実施日、評価者一覧は別紙のとおり

(別紙)

■評価対象プロジェクト

➤ 山脇プロジェクト

■評価会実施日

令和5年11月27日

■評価者一覧 (目標9)

氏名	所属・役職等
熊谷 誠慈 (PD)	京都大学 人と社会の未来研究院 教授
井ノ口 馨	富山大学 学術研究部医学系 卓越教授
西田 眞也	京都大学 大学院情報学研究科 教授
遠藤 薫	学習院大学 名誉教授
苧阪 直行	京都大学 名誉教授
櫻井 武	筑波大学 医学医療系 教授
銅谷 賢治	沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット 教授
永田 智也	D3 合同会社 マネージング・パートナー
林(高木) 朗子	理化学研究所 脳神経科学研究センター 多階層精神疾患研究チーム チームリーダー
堀 浩一	人間文化研究機構 理事
三浦 麻子	大阪大学 大学院人間科学研究科 教授
村井 俊哉	京都大学 大学院医学研究科 教授
横澤 一彦	筑波学院大学 経営情報学部 教授

※所属・役職等は評価会時点のもの

※評価にあたっては、公正で透明な評価を行う観点から、別途定める手続きに従い、被評価者の利害関係者が加わらないようにした。

ムーンショット型研究開発事業
研究開発プロジェクト 事後評価結果

1. プログラム

目標 9「2050 年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」

プログラムディレクター 熊谷 誠慈

2. 研究開発プロジェクト名

Awareness Music による「こころの資本」イノベーションと新リベラルアーツの創出

3. プロジェクトマネージャー

山脇 成人（広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター 特任教授）

4. 研究開発プロジェクト実施期間

令和 4 年 6 月～令和 6 年 3 月

5. 評価結果

総評：

音楽が持つポジティブ感性誘導効果を脳科学的に検証し、内受容感覚への気づきを促進する Awareness music/Sound の社会実装により、次世代がこころ豊かに活躍できる社会の実現を目指すプロジェクトであり、当初の計画通り進捗していた。

例えば、ラットにおいて迷走神経刺激が心拍誘発電位（HEP）を上昇させること、ヒトにおいて超高周波音が血糖値上昇に対する抑制効果を持つこと、さらに、ヒトにおいて HEP が内受容感覚の気づきの指標となる可能性を見出した。また、乳幼児とその母親、あるいは小学生を対象とした音楽を用いたフィールド実証検証も実施された。以上のように今後発展が期待される基礎研究に加え、社会実装に向けた研究開発においても知見が得られつつあったが、不測の事態により本プロジェクトは中止となった。

以上